



企画にあたって

葛西隆敏

(順天堂大学大学院医学研究科循環器内科学准教授)

デジタル医療は、情報通信技術（ICT）などのデジタル技術を医療に活用し、治療の効率化や症状の改善を図る医療・健康支援を指し、オンライン診療、ウェアラブルデバイス、遠隔モニタリング、人工知能（AI）技術による診断・治療補助、遠隔リハビリテーションのみならず、仮想現実（VR）/拡張現実（AR）技術による治療支援・医学教育、電子健康情報（EHR）/個人健康情報（PHR）を用いた医療ビッグデータ解析などを含むものである。

近年、これらを応用したさまざまな研究が行われ、実臨床でも応用されつつあり、循環器診療においてもさまざまな局面で活用されはじめている。

本企画は、これらの現状と課題についての情報提供を行うことをねらいとし、「診る」では実際の診療、診断や評価におけるデジタル医療に関してを、「識る」ではデジタル医療で扱われる情報に関する詳細を、「治す」では実際の治療での応用を、デジタル医療に関する研究開発に携わる先生方や実際の循環器診療で利活用している先生方にご紹介いただくとともに、現状の問題点として、特に医療情報・デジタル医療関連の課題について詳細にご説明いただいた。また、デジタル医療の根底をなすともいえる AI の循環器医療における可能性、医療機器開発における人材育成プログラムとして注目されるバイオデザインの考え方と循環器医療におけるその可能性について、各専門家よりご解説いただいた。

本企画によって、循環器診療におけるデジタル医療の利活用が進むことを願うとともに、デジタル医療を循環器診療に活かすための基礎的な資料として多くの方にご活用いただくことを期待している。